

フレイル 最新動向2024

—多彩に広がるアプローチに学ぶ—

特集にあたって

フレイルは、海外の老年医学の分野で使用されている「Frailty(フレイルティ)」が語源であり、2014年に日本老年医学会から提唱された概念です。加齢や慢性疾患、老年症候群が積み重なることにより脆弱となり、ストレスや疾患により要介護や死亡などに陥りやすい状態である一方、適切な介入・支援により、生活機能の維持向上が可能な状態像とされています。フレイルの要素は多岐にわたっており、身体的フレイル、精神・心理的フレイル、社会的フレイルが広く知られていますが、口腔機能に注目したオーラルフレイル、排尿・生殖機能に注目したウロフレイル、視機能の低下に注目したアイフレイル、皮膚の脆弱性に注目したスキنفレイルといった概念も近年、提唱されています。これらはフレイルの症状としてもとらえられますが、フレイルをきたしやすい疾患や老年症候群が個人に同時に複数存在し、互いに悪影響を及ぼし、要介護や死亡のリスクの増加させていることが明らかになってきています。

本特集では、このように近年広がりを見せているフレイルの多面性に着目し、老年期に起こりやすいさまざまな機能の低下や症状からフレイルをとらえるアプローチについて、各領域の専門家よりご解説をいただきます。フレイルをより広く深く理解する一助となりますと幸いです。

(編集部)